

# つながり・つながる

このコーナーでは、環境活動をしている団体、施設及び他団体との連携を紹介いたします。

## 千曲川のサケを呼び戻そう・森と海をつなぐサケ

信州水環境マップ・ネットワーク  
大洞盛胤

私は、9年間長野市自然環境保全推進委員として市内15箇所の湧水の探索測定調査をしています。2年前、水環境一斉調査活動ネットワーク事務局の沼田清さんに「長野市でサケが飼える湧き水を探してほしい」と依頼されました。

サケを育てるには、冬凍らない綺麗な河川でなければなりません。戸隠、

鬼無里、大豆島、松代、保科などで適地を探しましたが、最終的に放流地は、深さ30cmで、川床礫（かしようれき）が多く、COD3以下で、湧水15箇所が流れ込んでいる榎花川に関係者で決めました。

昨年11月、「信州サケの文化シンポジウム」が開催されたとき、講師の安茂里公民館長・宮下健司さんは「榎花川、犀川は古くからサケの遡上があり、大豆島は、西大滝ダムの完成前、昭和初期までは、サケ漁業拠点だった」というお話がありました。

翌12月に、上田市浦野川で新潟水辺の会主催のサケ発眼卵の埋立飼育に立会い、新潟でサケの産卵、漁協のサケ捕獲などを見学し、放流会に向けての準備をしました。

サケ卵埋立6千尾の作業には、環境団体、信大工学部学生、榎花川漁協などから21名が集まり、12月22日に冷たい

川床作業を終了。卵からサケ稚魚の飼育には、企業ホンダカーブ東和田店、県環境保全研究所北野研究員、湯谷小学校6年生、浅川小学校4年生があたりました。

3月14日、いよいよサケの放流会。83名が力を合わせて育てた3万尾のサケの稚魚を榎花川へ放流しました。また、上田、佐久、木島平、野沢温泉、栄村、飯山でも千曲川に合計23万尾が放流され、延べ60人がこの放流会に参加しました。

新潟と千曲川流域の各地域で『森と海』をつなぐ活動を実現させたのは、「千曲川にサケを呼び戻そう」という人々の熱い思いでした。



## ESD(持続可能社会のための教育)を進めよう!

信州大学教育学部特任教授 渡辺隆一

SDとは「Sustainable development」持続可能な開発・発展・社会」の略で、1992年のブラジルサミットで提唱されました。そのための教育(Education)が「ESD」持続可能な社会のための教育」で、文科省も「生きる力」ESD」として推進しています。環境教育が、過去の負の遺産である環境問題の解決のための教育活動であるのに対して、ESDは将来社会を見通して、そこにあるべき社会的な対応を考え、実践していくという教育活動です。

しかし、私たちには未来を自分で作り出すという発想や思考はなかなかないし、その経験も少ない。だが、規模校が増加する中で、「地域に学校を開く」必要性が国から地方まで幅広く言われる。その中心的テーマがESDでもある。地域の環境課題をテーマにすればそれは環境教育でもあり、地域学習でもあり、地域の人たちと話の聞いたり共同で取り組んだりすればそれも地域に開かれた学校でもあり、子どもたちが地域に目を向け新しい社会の創造にもつながるといえる。

## 事務局人事異動のお知らせ

4月1日の人事異動により、事務局員が代わりました。事務局員は係長の横谷に代わり高橋正直が担当いたします。

## 井上隆文理事就任あいさつ

(長野市役所環境部長)

「アジェンダ21ながの」環境行動計画「2013」に掲げる「長野市の環境ビジョン」の実現を目指し、会員の皆さまをはじめ、多くの方々とのパートナーシップの下、地球規模で環境問題を考え、地域に根ざした環境負荷の低減に取り組んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いたします。

## 27年度通常総会のお知らせ

日時：6月14日(日)10時～12時

場所：長野市ふれあい福祉センター

### 《発行》

ながの環境パートナーシップ会議  
市民、事業者、行政の協働(パートナーシップ)により環境保全に取り組んでいます。

### 《編集・事務局》

〒380-8512  
長野市大字鶴賀緑町1613  
長野市環境政策課内  
TEL 026-224-5034  
FAX 026-224-5108  
E-mail:kankyo  
@city.nagano.lg.jp  
URL http://nagano-ep.net/